



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第五十八号）

立夏りっか

五月五日

正条植

今年は桜の満開はいつもより遅かったのですが、その後の暖かさのせいでしょいか、田植えは早くから始まったように思います。四月十二日にすでに田植えを見ました。そして暦の上での夏、立夏を迎える頃には、水田にか細い早苗が整然と並んでいます。

縦横まっすぐに等間隔に並ぶ早苗は、機械植えの賜物のように思いますが、まだ人力で田植えが行われていた頃でもまっすぐに植えられていました。両畦に沿って打たれた標しの棒から綱をぴんと張り、一列に並んだ植え方が綱の目印に合わせて早苗を植えていく方法です。これを「正条植」と呼ぶそうです。今でも、神宮神田の御田植初などお祭りの時に見ることが出来ます。それまでは雑植といって、不規則に植えていくのが普通だったのです。

この「正条植」にすると、稲が生長した時、日当たりも風通しも良く、害虫駆除や除草がしやすく農作業の効率も上がるという利点があるため、三重県では明治三十年後半に県や農会の強い指導のもとに定着したとされています。県史編さん室によると、安濃郡（現津市）の実行率は、明治三十五年に0%だったのが、四年後の同三十九年には九十八%と急激に伸び、短い間に普及したことがわかります。急激な普及は農作業の効率だけでなく、律儀な日本人の気風にそういうものであったことも要因の一つではないでしょうか。

田に水が入り、田植えがすむと、夜はカエルの鳴き声が響くようになります。それも一匹二匹ではなく、早くも合唱になっています。

文 千種清美

